

大阪府歯科技工士会生涯研修

株式会社前川デンタルラボ
前川泰一



基本研修

①教養課程

咬合の進化 ～過去から未来へ～

歯科技工のデジタルの波は止まることを知らず、歯科業界自体がデジタル無しでは語れない程に変化している。オクルージョンも時代とともに進化し、そしてデジタルの時代がやってきた。今まで見えなかったものが見える様になり、理解しにくかった動きも再現可能になった。これからは更に便利になっていくことであろう。過去を知り、未来へ繋げていく。私たちが次世代へ受け継いでいかなければいけない知識を再確認したい。

歯科技工におけるデジタルの波はとどまるところを知らず、歯科業界全体がいまや「デジタル抜きでは語れない」ほど大きく変化している。咬合も時代とともに進化し、デジタルの時代を迎えたことで、これまで見えなかったものが“見える”ようになり、理解しにくかった動きも再現可能となった。今後も、技術はさらに便利で精緻なものへと進化していくに違いない。

だからこそ、過去を知り、未来へつなぐ視点が重要である。私たちが次世代へ受け継いでいくべき知識と本質を、いま一度しっかりと再確認したい。

②専門課程

アナログの知識や経験でデジタルを使う ～デジタル時代の技工を考察する～

デジタル機器は上手く使えば私達の仕事を手助けしてくれる重要なアイテムだと考えている。私は「デジタルは若い技工士の仕事」と考えるのは間違いだと思っていて、経験のある技工士がその知識を持って使いこなす事で、より良い補綴装置が製作でき便利な道具になると考えている。これからのデジタル技工時代に対応する上で抑えておきたい事や考え方を簡単な症例を使い説明させていただければと考えている。

デジタル機器は、使い方次第で私たちの業務を大きく支援してくれる重要なツールである。私はしばしば耳にする「デジタルは若い技工士の仕事」という考え方は誤りだと思っている。むしろ、豊富な経験をもつ技工士こそが、その知識を背景にデジタルを使いこなすことで、より質の高い補綴装置の製作が可能となり、デジタルは真に“便利な道具”として生きてくる。

これから本格的に進むデジタル技工時代に対応するために、押さえておきたい視点や考え方を、いくつかの簡単な症例を用いてお話しさせていただければと思う。